

令和4年度 自己評価表(最終評価)

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の個性・能力の伸長をはかりながら、確かな学力と豊かな人間性の涵養に努め、他者と協働し地域の未来創造に貢献する人材を育成する。	今年度の重点目標	1 確かな学力の育成 2 豊かな人間性の育成 3 自己実現のための進路指導の充実 4 地域との連携による学校づくり
-------------------	--	----------	--

評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	中間評価	評価に対するコメント	最終評価
1 確かな学力の育成	○学力の向上 ・基礎的・基本的な知識及び技能の習得 ・思考力、判断力、表現力の更なる育成 ・主体的・対話的で深い学びの実現	・アクティブ・ラーニングの公開授業及びルーブリック評価に関する公開授業を実施した。 ・Google Classroom の活用を推進することができたが、Find! アクティブラーナーの活用が遅延した。(ICT機器活用100%) ・資格取得(合格率66%)	・組織的、計画的に授業改善を推進し、生徒が主体的に学習に取り組む	・Google for Education を活用した授業を実施 ・BYAD対応、ICT機器を活用し、ルーブリック評価・観点別評価のあり方についての校内研修会を実施	B	・Google for EducationやICTの活用が進んだ(スプレッドシートによる意見共有、Meet によるリモート授業・海外とのビデオ通話、スライド、デジタル教科書の活用等) ・ルーブリック評価、観点別評価に関する研修を行ったが、運用に関しては引き続き研究が必要	B
			・各教科1人以上が授業公開し、教科横断型授業、授業改善を推進	・各教科1人以上が授業公開し、教科横断型授業、授業改善を推進	C	・授業公開と研究協議を実施し、授業改善を推進することができたが、教科横断型の授業はまだ進んでいない。	B
			・各系列の特色化と資格取得の促進し、資格試験合格率70%以上	・系列ごとの各種資格・検定の受験を促し、合格に向けての支援	B	・英検に加え全商英検を導入し、就職希望者により適した検定の受検機会を設けた。 ・英検合格者 2級1名、準2級3名 ・「保育歌唱・保育器楽」資格取得22名、内1級合格6名 ・食物検定(78%)、被服検定(100%)、保育検定(77%)が1・2級合格	B
			・探究学習を深化させ、課題解決能力の向上	・学校独自事業の充実、特別支援学級との交流	B	・コロナ禍で制限がある中、3年子ども文化保育実習は2/3回、手話言語特別支援学校との交流2/2回(1回はリモート)実施した。 ・デッサン講習会の実施(3年受験希望者、1・2年系列の希望生徒、西部地区高校生希望者)	B
			・規範意識・安全意識の向上	・「新商都米子まちづくり」へ参画し、学習成果を米子市に提案	B	・SDGsの視点を軸に、住みたい町づくりを目指して研究を進めている ・少数の班が米子市をテーマに探究したが、提案ができなかった	B
2 豊かな人間性の育成	○生徒の主体的活動の推進(国際交流・部活動)	・安全意識の高揚と啓発に努めたがヘルメット着用率は15%であった。 ・遅刻者数は前年比14%減であった。 ・SNSに起因する問題行動があったが件数は減少した。 ・生徒会執行部による活動がコロナ禍ではあったが対策をして活動することができた。 ・国際交流については、コロナ禍の影響で直接はできなかった。 ・外部機関(SSW、児相、医療機関、要対協)との連携が密にでき、早期に対応できた。 ・学校生活アンケートの2回目が未実施により比較分析ができなかった。	・規範意識・安全意識の向上	・米子高校生としての自覚を促す行動の啓発強化 ・SNSトラブル未然防止に向けたデジタル・シティズンシップ教育の推進	B	・SNS関連の問題が発生したが迅速に対応できた。今後も講演会を行い啓発活動をしていく ・朝のSHRでchromebookを活用することができたが、使用ルールを徹底することができていない	C
			・自転車ヘルメット着用率100%	・掃除の徹底と整理・整頓の推進、時間管理、挨拶の励行	C	・SHR・授業・掃除の開始時刻の徹底を継続して行っていく必要がある ・生活委員とともに挨拶運動を実施したが、挨拶が減ってきている	C
			・遅刻者数が前年比10%減少	・自転車ヘルメット着用徹底(生徒による啓発・PTA連携)	D	・着用率は10%程度であり目標を達成していない。来年度より県下での着用努力義務となる事にむけて改めて指導をしていく	D
			・生徒の各種活動への積極的に参加	・遅刻確認票による遅刻者指導の強化と保護者連携	C	・前年度より10%減の目標はおおむね達成できたが、遅刻確認票を渡しても指導にまわらない生徒も見られた	B
			・生徒会執行部を中心とした自主的活動の充実。(はるかのかのひまわり絆プロジェクトの継続、創立50周年記念事業への参画)	・生徒会執行部が主体的に学校行事等の企画・運営などに取り組むことができた ・はるかのかのひまわり絆プロジェクトはPTAとも協力して実施することができた ・創立50周年記念式典では、式典進行の補佐やマスコットキャラクターの制作・紹介などに携わった。 ・50周年記念リニューアル校歌の作成	B	・生徒会執行部が主体的に学校行事等の企画・運営などに取り組むことができた ・はるかのかのひまわり絆プロジェクトはPTAとも協力して実施することができた ・創立50周年記念式典では、式典進行の補佐やマスコットキャラクターの制作・紹介などに携わった。 ・50周年記念リニューアル校歌の作成	A
○支援が必要な生徒への援助	・生徒情報共有し、適切な支援ができる	・校内研修、委員会での情報共有、外部関係機関との連携による適切な対応	B	・外部機関と連絡を密に行い、適切に対応することができた ・校内連絡会を実施し情報共有を図った ・担任・保護者等の間で情報共有し生徒の支援をおこなった	A		
	・豊かな人間関係を築き、生きる力を育む	・学校生活アンケート(年2回実施)で自己肯定感が高いと回答する生徒が70%を超えるようにきめ細かい支援の実施	B	・学校生活アンケートで自己肯定感が高いと回答する生徒が9月で87%、1月で89%いた。GoogleFormによる提出率が9月88%、1月82%であったため、提出率が上がるような働きかけが必要	A		
	・人権学習委員が主体となって活動できる人権教育LHRの運営、活性化した学習を構築	・人権学習委員が主体となって活動できる人権教育LHRの運営、活性化した学習を構築	B	・人権学習委員がテーマの選定や発表の場で主体的に活動することができた。	A		
	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化	B	・生徒は様々な講演を聞き、進路選択の助けになった。具体的な進路決定にまだつなげられない生徒もいる ・全体の流れを組み上げていく段階で、時機を見て適切に動くことが難しかった ・探究学習の系統的な形が完成し、イロトリプロジェクトと名づけた。今後さらに内容について徹底する必要がある	B		
	・キャリアパスポートの活用した進路指導の実施し、自らの成長を実感できる取組	・キャリアパスポートの活用した進路指導の実施し、自らの成長を実感できる取組	C	・キャリアパスポート記入は予定通りできてはいるが、活用方法に課題が残る	C		
3 自己実現のための進路指導の充実	○進路指導の充実	・「探究学習」にSDGsの視点を導入することで全学年の系統的なキャリア教育の構築に務めた。 ・キャリアパスポートの作成はできたが、進路指導への活用について検討が必要であった。 ・大学進学33名(うち国公立3名。対前年比+14名)、短大進学20名(うち公立短大4名)、専門学校49名、就職27名(うち公務員5名、民間は中国電力など)の結果で、大変健闘したと評価する。 ・看護体験はコロナ禍の合間を縫って実施できた。	・進路実現に向けて主体的に努力し学びに取り組む態度の育成	・「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」の系統的な探究学習の深化	B	・生徒は様々な講演を聞き、進路選択の助けになった。具体的な進路決定にまだつなげられない生徒もいる ・全体の流れを組み上げていく段階で、時機を見て適切に動くことが難しかった ・探究学習の系統的な形が完成し、イロトリプロジェクトと名づけた。今後さらに内容について徹底する必要がある	B
			・外部講師による放課後学習会、公務員講座の充実	・キャリアパスポートを活用した進路指導の実施し、自らの成長を実感できる取組	C	・キャリアパスポート記入は予定通りできてはいるが、活用方法に課題が残る	C
			・外部講師による放課後学習会、公務員講座の充実	・学習成果発表会における他校生徒との交流	B	・1月実施予定であった学習成果発表会が大雪のため中止となったため、2月にリモート配信により実施	B
			・外部講師による放課後学習会、公務員講座の充実	・外部講師による放課後学習会、公務員講座の充実	A	・大学34名(内国公立3名。対前年比+15名)、短大26名(内公立短大5名)、専門学校53名(内米子医療センターなど看護医療系20名)、就職28名(内公務員5名、民間は中国電力などに内定)と成果をあげた。学年全体の進路意識が向上した	A
			・教員の進路指導力の向上と外部指導者の活用	・教員研修と進路希望検討会、探究学習の充実による進路保障	B	・進路検討会は1~3年次とも実施できたが、教員研修(先進校視察)は実施が厳しい状況である ・探究活動で取り組んだ実績を入試の面接やプレゼンテーションに用いた生徒もおり、一定の成果があった ・美術系進路希望者のためのデッサン講習を1年通じて取り組んだ。また美術系進路指導の中でポートフォリオの準備をし、実績をあげた	B
・看護・医療系進学希望者の職場体験の実施による進路実現	・看護・医療系進学希望者の職場体験の実施による進路実現	C	・看護体験は新規開拓し、コロナ禍の中で進路実現につながった	A			
4 地域との連携による学校づくり	○地域へのニーズに応じた地域貢献	・コロナ禍でのイベントのため制限や中止、施設への訪問ができない状態が相次いでいたが、開催をする工夫等を行った。 ・地域との連携により学校への信頼、期待がなされている。 ・学校運営協議会の活動の活性化がコロナ禍のために不十分であった。 ・情報発信については、ホームページ、フェイスブック、youtube とも適切な時期に活用ができた。	・文化芸術活動、系列での事業を通して地域へのニーズに積極的に答える	・部活動における各種イベントの企画・開催と参加(ハイホット・ダンスフェスティバル、施設訪問、書道パフォーマンス)	A	・総合美術展の開催(芸術) ・けやき通り祭りオープニングで書道パフォーマンスを披露(書道同好会) ・米子市環境課「環境チラン、ポスター作成、伯耆伝承館主催紙芝居制作、米子市壁画制作、尚徳公民館ほかへの作品貸し出し展示など(美術・漫画研究部) ・3校合同演奏会を主管校として開催(吹奏楽部) ・ハイホット・ダンスフェスティバル実施、けやき通り祭りでダンスを披露(ダンス部)	A
			・系列事業における活動で地域貢献を促進(イチゴ栽培・収穫交流、花壇用草花植栽活動、プログラミング教室)	・系列事業における活動で地域貢献を促進(イチゴ栽培・収穫交流、花壇用草花植栽活動、プログラミング教室)	B	・プログラミング教室を実施 ・事業(イチゴ・花壇植栽)は、予定通り実施	A
			・学校運営協議会を活用した地域との連携活動の推進(はるかのかのひまわり絆プロジェクト、自転車ヘルメット着用指導)	・学校運営協議会を活用した地域との連携活動の推進(はるかのかのひまわり絆プロジェクト、自転車ヘルメット着用指導)	B	・(はるかのかのひまわり)事業に協力できた。 ・はるかのかのひまわり横断幕を作成して地域との連携を進めた	B
			・高校生出前キャリアガイダンスによる生徒活動の活性化	・高校生出前キャリアガイダンスによる生徒活動の活性化	B	・今年度から中学校に加え、尚徳小学校へ2年次生が出向くことになり、高評価であった。生徒の意識も高く参加希望者も多かった	A
			・社会に繋がる教育活動を推進	・社会に繋がる教育活動を推進	B	・創立50周年式典、総合美術展、ハイホット・ダンスフェスにて活用	A
○積極的な社会参画と情報発信	○積極的な社会参画と情報発信	・情報発信については、ホームページ、フェイスブック、youtube とも適切な時期に活用ができた。	・マスコットキャラクターを活用した各種イベントへの積極的参加	・マスコットキャラクターを活用した各種イベントへの積極的参加	B	・大雪にもかかわらず多くの方に見ていただくことができ、芸術活動をアピールできた	A
			・総合美術展の開催による情報発信	・総合美術展の開催による情報発信	B	・HPではタイムリーな発信ができた	A
			・ホームページでのタイムリーな情報発信	・ホームページでのタイムリーな情報発信	A		A

評価基準 A:目的・目標を達成した B:ほぼ計画(予定)どおり推進している C:取り組みとしてはやや遅れている(取組は進めたが、成果が出ていない) D:一層の(新たな)取組が必要